

福井県立恐竜博物館と周辺観光地の連携に向けた課題と解決策

Issues and Solutions for Collaboration between Fukui Prefectural Dinosaur Museum and Neighboring Tourist Destinations

助重雄久・高嶋雅吉・大西愛理・岡田菜々華・上嶋七海・戸川 寿・
中川翔平・中島茉莉愛・牧 杏花・牧 大登・吉井晃洋

SUKESHIGE Takehisa, TAKASHIMA Masakichi, OONISHI Airi, OKADA Nanaka,
KAMIJIMA Nanami, TOGAWA Kotobuki, NAKAGAWA Shohei, NAKAJIMA Maria,
MAKI Kyouka, MAKI Hiroto, YOSHII Kouyou

本研究では2017年11月に恐竜博物館来館者に対して実施したアンケート調査を、2013年11月に実施した同様なアンケート調査と比較しながら、周辺地域での観光行動が変化したのか否かを分析した。この結果、①安定的な集客圏が北陸・東海・近畿地方以遠には広がっていない、②リピーターの割合は3割弱でほとんど変化がない、③前回調査と同様、恐竜博物館から1時間程度離れた地域に宿泊する傾向が強い、④恐竜博物館にしか立ち寄らない人がほぼ3分の1を占めており、市内のジオサイトや古い町並みに立ち寄る人が増えていない、などの問題点が明らかになった。これらの問題点に対して、筆者らは独自の視点から問題点を解決する方策を検討し提案を試みた。

キーワード：ジオパーク、恐竜博物館、観光、連携、福井県、勝山市

I はじめに

手取層群は中生代、ジュラ紀から白亜紀の地層であり、富山県・福井県・石川県・岐阜県にまたがり分布している。手取層群からは1億数千万年前に生きていた植物化石、貝の化石などさまざまな化石が見つかる¹⁾。とくに福井県勝山市の手取層群からは、1982年に中生代白亜紀前期のワニの全身骨格化石、1988年に小型肉食恐竜の歯が発見された。1989年以降は福井県の恐竜化石発掘調査事業が行われ、フクイラプトル、フクイサウルスの全身骨格が復元されたのをはじめ、恐竜の卵や幼体の骨、足跡化石なども発見された²⁾。

学術的に貴重な恐竜化石の相次ぐ発見により、福井県では恐竜の展示施設を建設しようという気運が高まり、2000年7月、勝山市の長尾山公園内に福井県立恐竜博物館(以下「恐竜博物館」と略す)が開館した。恐竜博物館は観光施設としても人気を呼び、2018年1月には通算入館者数が900万人を突破した³⁾。

一方、勝山市は「ふるさとルネッサンス」(勝山市の復興と再生)の実現に向け、2002年に市域

にある歴史遺産、自然遺産、産業遺産を活かしてまちづくりを進める「エコミュージアム構想」を提唱した⁴⁾。また、2009年10月には勝山市全域をエリアとした「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」が日本ジオパークに認定された。

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」は、恐竜時代から現代までの変動する大地の時間軸の中で起こった地球活動や、その自然の中で暮らす勝山の人々が育んできた歴史・文化などを、目で見て肌で感じ取ることができる「地域まるごとジオパーク」を目指している⁵⁾。しかし、2013年12月に行われた再認定審査の際には、勝山市のまちづくりの中でのジオパークの位置づけや、市が進めるエコミュージアムとの関係が不明確なことなどを理由に、全国のジオパーク初の条件付き再認定となり⁶⁾、恐竜博物館を含めた地域の各種資源を勝山市民がジオパークでどのように活かすかを市民、市、県などで十分に話し合うことが求められた⁷⁾。

助重・恐竜博物館観光調査グループ(2014)は、再認定審査直前の2013年11月に恐竜博物館で実施したアンケートの結果をもとに、館内での滞在時間が長くなればなるほど、来館者の行動が館内で完結してしまい、周辺地域に及ぼす間接的な経済効果や地域社会との関係が希薄になってしまうことを指摘した⁸⁾。また、来館者を勝山市内へと導く観光案内機能を館内か駐車場周辺に置き、ジオパークの拠点施設となっている恐竜博物館と市内のジオサイトや観光地を結びつけることを提案した。

その後、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」は、①恐竜博物館を主要ジオサイトとして位置づけたこと、②ジオパークを推進する協議会事務局が大幅に強化されたこと、③エコミュージアムとジオパークの連携進展など課題とされた項目の多くについて改善が認められたこと、④地域住民のジオパークへの参画が進んでいることで、2015年12月に条件なしの再認定となった⁹⁾。しかし、勝山市内のジオサイトや観光地は依然として賑わっているとは言い難い状況にあり、勝山市以外の周辺地域にもたらす経済効果が拡大したのか否かについても疑問が残る。

こうした状況をふまえて、本研究では2013年11月に実施したのと同様なアンケート調査を恐竜博物館来館者に対して実施し、前回と今回の調査結果を比較しながら、周辺地域での観光行動が変化したのか否かを分析する。また、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の認知度やジオサイトへの関心についても考察する。これらの分析・考察をもとに、拠点施設である恐竜博物館と市内のジオサイトや周辺観光地との連携を促進するにあたっての課題を明らかにし、その解決策を考えていきたい。

II 勝山市の概要と周辺地域の観光資源

1. 勝山市の概要

勝山市は福井県北東部の九頭竜川中流域に位置しており、大野市、福井市、坂井市、吉田郡永平寺町の県内3市1町と、石川県の加賀市、小松市、白山市に隣接している。周辺は1,000m級の山々に囲まれている。市街地は福井市中心部から東に約28km、九頭竜川の流れに沿って形成された河岸段丘上に位置している。

勝山では廃藩置県後に機業が勃興し、羽二重を中心とする絹織物の製造が盛んになった。さらに昭和初期には人絹織物の導入によって国内有数の織物産地となった。第二次世界大戦後は、設

備の近代化や技術革新により、高級合繊織物の一大産地として国内外に知られた¹⁰⁾。しかし、繊維産業は海外との厳しい競争にさらされ、高度経済成長期以降、衰退の一途をたどっている。

勝山市は町村合併法に基づく「昭和の大合併」により、1954年9月1日に勝山町、平泉寺村、村岡村、北谷村、野向村、荒土村、北郷村、鹿谷村、遅羽村の旧1町8村が合併して誕生した。市域は面積253.88km²で、東西23.3km、南北17.0kmに及ぶ¹¹⁾。人口は、1950年の国勢調査では38,962人であったが、その後は減少傾向に転じ、1985年には30,416人となった。その後は、基幹産業である繊維産業の不振もあって3万人を割り込み、2015年には24,125人まで減少した。65歳以上の高齢人口の割合は、2005年の28.1%から、2015年には34.0%に上昇した。また2015年国勢調査における平均年齢は福井県全体では47.7歳であったが、勝山市は50.8歳で、福井県の9市8町のなかでは池田町(56.2歳)、大野市(50.9歳)に次いで高かった。

市内の主な観光資源としては、恐竜博物館のほか、勝山市街地の古い町並み、日本一の高さを誇る五重塔や大仏殿がある越前大仏清大寺、勝山城博物館、世界文化遺産登録を目指している「霊峰白山と山麓の文化的景観」の構成要素である平泉寺白山神社などがある(図1)。

市街地の東寄りには1905(明治38)年から1998年まで勝山の中堅機業場として操業していた建物を保存・活用し、織物関係の機械の動態展示や体験学習を行う「ゆめおーれ勝山」が2009年に開設された。また、市域の東部には西日本の日本海側では最大の規模を誇るスキー場「スキージャンプ勝山」が1993年に開設され、冬季には北陸・東海・近畿から多くのスキー・スノーボード客が訪れている。

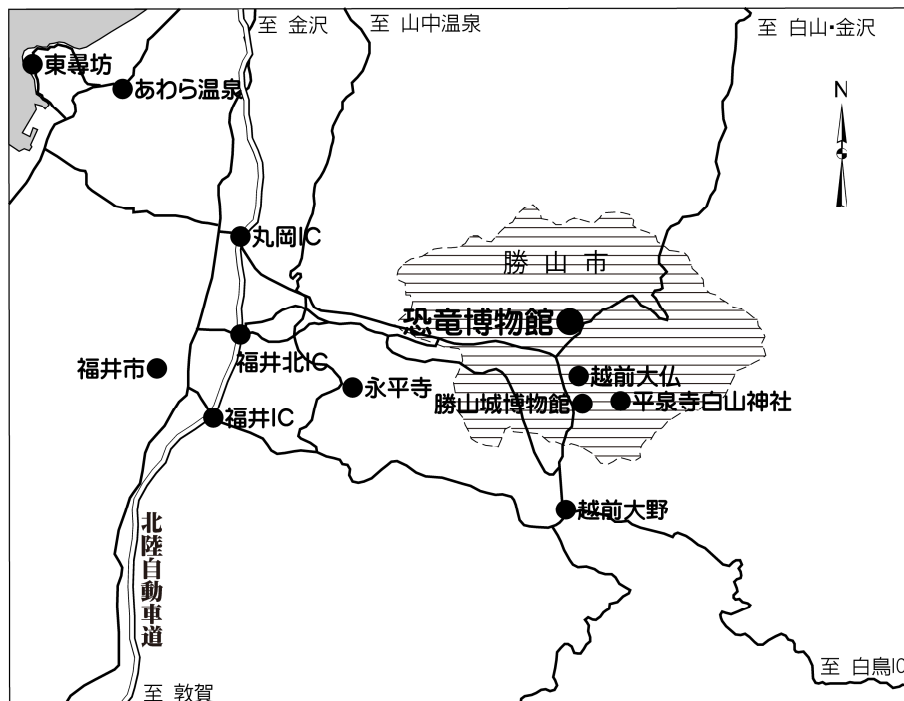


図1 勝山市および周辺の地域概要

2. 周辺地域の観光資源

東南隣の大野市には 400 年を超える歴史がある城下町の町並み、西南隣の永平寺町には、道元禪師が坐禅修行の道場として創建した曹洞宗の本山・永平寺がある(図 1)。また、九頭竜川右岸の県道を西に向かい、北陸自動車道の丸岡 IC を越えてさらに九頭竜川右岸を進むと、1 時間ほどで三国湊やあわら温泉、東尋坊に到達する。

恐竜博物館の近くから国道 157 号を北上すると、白山白川郷ホワイトロード(旧称: 白山スーパー林道)や金沢市方面に向かうことができる。また、丸岡 IC に向かう県道の途中から国道 364 号を北上すると、加賀温泉郷の山中温泉、山代温泉に到達することができる。

Ⅲ 恐竜博物館における観光動向調査とその結果

1. 調査の目的および方法

本研究では、恐竜博物館の来館者が勝山市や近隣地域でどのような観光行動をとっているのかを把握するためにアンケート調査を実施した。調査は 2017 年 11 月 3 日(金・祝)～4 日(土)に長尾山公園内の恐竜博物館駐車場とその周辺で実施した。調査対象者は、博物館に来館した観光客から無作為に選び、調査票の質問項目に基づいて調査者が直接対象者に質問する方法で実施した。対象者が夫婦・カップルや、家族連れ、グループなど複数人で訪れていた場合は、代表者 1 名に回答してもらった。質問項目は表 1 に示したとおりである。

2. 調査結果

1) 対象者の基本属性と同伴者

調査対象は 300 名で、男女別では男性が 168 名(56.0%)、女性が 132 名(44.0%)であった。年齢別では、20 歳未満 2 名(0.7%)、20 歳代 67 名(22.3%)、30 歳代 86 名(28.7%)、40 歳代 75 名(25.0%)、50 歳代 29 名(9.7%)、60 歳以上 41 名(13.7%)で、20～40 歳代が全体の 76.0%を占めていた。

同伴者別では家族連れが 183 名(61.0%)でもっとも多く、以下は夫婦・カップルが 65 名(21.7%)、グループが 23 名(7.6%)、同好会やサークル等が 7 名(2.3%)、一人旅が 5 名(1.7%)と続いた。このうち、家族連れ 183 名の同伴者数(回答者本人を含む)をみると、2～3 人が 79 名、4～5 人が 89 名、6 人以上が 15 名であった。また家族連れで来た回答者の年齢は 30～40 歳代が合わせて 128 名で 69.9%を占めていた。これらを考え合わせると、30～40 歳代の夫婦と子供 1～2 名の家族連れが主な来館者層といえる。

2) 居住地の分布

来館者(回答者)が 10 名を上回っていたのは、愛知県 45 名(15.0%)、福井県 32 名(10.5%)、大阪府 31 名(10.3%)、石川県 29 名(9.7%)、富山県 25 名(8.3%)、岐阜県と京都府各 18 名(それぞれ 6.0%)、滋賀県 16 名(5.3%)の 2 府 6 県であった(図 2)。上記の府県を含む北陸・東海・近畿地方からの来館者は 249 名にのぼり、全体の 83.0%を占めていた。一方、関東地方からの来館者は 18 名にすぎなかった(図 2)。

2013 年 11 月の調査では北陸・東海・近畿地方からの来館者の割合は 86.4%であり、今回は前

表1 対面式アンケートに用いた調査票

勝山市および周辺の観光に関する聴きとり調査 調査日 ___日 担当 ___班 整理番号 _____

1.お住まいはどちらですか？
 a. 県外…都道府県名 [] b. 県内…市町村名 [] c. 国外…国名 []

2.勝山に来るのに利用した交通手段(遠方からの場合、空港や JR 駅からの交通手段)を教えてください。
 a. 自家用車 b. レンタカー c. 観光バス(団体貸切) d. 観光バス(パックツアー)
 e. えちぜん鉄道+コミュニティバス f. バイク g. その他 []

3.自家用車・バイクで来られた方にお尋ねします。 a.勝山に来る時と b.勝山から次の観光地に向かう(または帰宅する)時に利用するルートを裏の図の①~⑧から選んでください。
 a. 来る時 [] b. 他の観光地に向かう(または自宅に帰る)時 []

4.今回の旅にはどなたと何人で来られましたか？(人数にはご自分も含みます)
 a. ひとり旅 b. 夫婦・カップル c. 家族と []人 d. 女子会・同窓会 []人
 e. 同好会・サークル・部活動 []人 f. その他のグループ、団体等 []人

5.今回の旅は何泊のご予定ですか？宿泊される場合は宿泊料の総額、宿泊地、宿泊手段も教えてください。
 [泊数] a. 日帰り b. 宿泊 →合計泊数 []泊
 [宿泊地別泊数](宿泊地が2か所以上ある場合は、すべての宿泊地についてお答えください)
 a. 勝山市内 []泊 b. 越前大野 []泊 c. 福井市内 []泊 d. 三国 []泊
 e. 芦原温泉 []泊 f. 県内他地域または県外 []泊 地域名 []

6.恐竜博物館に来たのは何回目ですか？ a. はじめて b. 2回以上

7.今回の旅の計画を立てるにあたり、どんなもので情報を集めましたか？(該当するものにいくつでも○)
 a. 旅行雑誌(るるぶ、ことりっぶ等) b. 観光パンフレット・マップ c. 観光協会・観光施設等のHP
 d. 旅行会社・予約サイトのHP e. 知人からの口コミ f. 個人(旅行者)のブログやSNS
 g. その他 []

8.上記のうち恐竜博物館の情報は、何で収集しましたか？ →記号 []

9.今回の旅で恐竜博物館以外には、どこに立ち寄ります(ました)か？《いくつでも○》
 a. 越前大仏 b. 勝山城博物館 c. 平泉寺白山神社 d. はたや記念館 ゆめおーれ勝山
 e. 本町通りの町並み f. 越前大野 g. 永平寺 h. 丸岡城 i. 一乗谷朝倉氏遺跡
 j. 三国湊 k. 東尋坊 l. 越前松島水族館 m. 芦原温泉 n. 芝政ワールド
 o. 越前海岸 p. 敦賀(気比神社、赤レンガ倉庫等) q. 三方五湖 r. 山代・山中温泉
 s. 粟津温泉・那谷寺 t. 白山ろく・スーパー林道 u. 金沢(兼六園等)
 v. その他 [] w. 恐竜博物館以外は立ち寄りなかった

10.おみやげは上記のうち、どの観光地で買う予定ですか？(既に行った場合も含む)
 →記号 [] [上記以外](駅、SA等) []

11.「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」を知っていますか？ a. はい b. いいえ

12.問11で「a. はい」と答えた方は、行ったことがあるジオサイト(見どころ)を教えてください。《いくつでも○》
 a. 恐竜化石発掘地 b. 夫婦滝・杉山鉱泉 c. スキージャム勝山 d. 弁ヶ滝 e. 御堂之滝・釣鐘岩
 f. 池ヶ原湿原 g. 大矢谷白山神社の巨大岩塊 h. 檜ヶ壁 i. 七里壁 j. 大清水
 [年齢] a. 20歳未満 b. 20歳代 c. 30歳代 d. 40歳代 e. 50歳代 f. 60歳代以上
 [性別] a. 男 b. 女
 ご回答いただきありがとうございます。

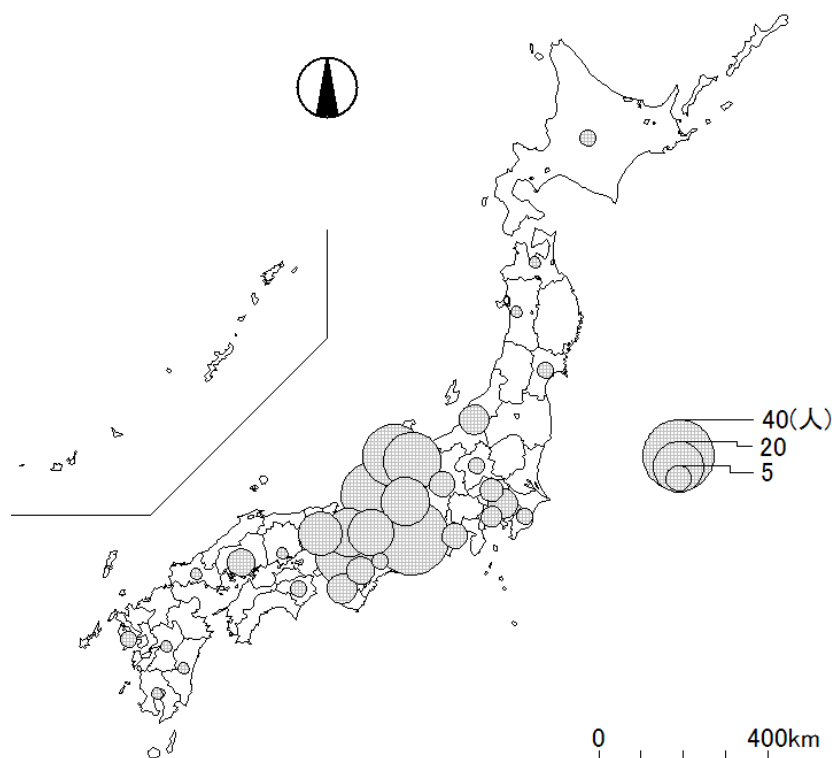


図2 都道府県別来館者(回答者)数
(アンケート調査をもとに作成)

回を3.4%下回ったことになる。しかし、東京都からの来館者の割合が3.6%から1.7%に下降したことからわかるように、遠方からの来館者が目立って増える傾向はみられず、安定的な集客圏は比較的短時間で来られる北陸・東海・近畿地方に限られていることがわかる。

3) 利用交通手段

勝山までの利用交通手段は、自家用車が247名(82.3%)と圧倒的に多く、以下はレンタカーが18名(6.0%)、観光バスの団体貸切12名(4.0%)、えちぜん鉄道+コミュニティバス11名(3.7%)、その他8名(2.7%)の順であった。来訪者が多かった北陸・東海・近畿地方からは、249名のうち216名が自家用車を利用して訪れていた。

自家用車またはバイクで来館した人には往復の利用ルートを探ねた。前回調査時との大きな変化は、2017年7月8日に中部縦貫自動車道の一部である永平寺大野道路が全通し、北陸自動車道の福井北ICと勝山ICが直結されたことである。これにより北陸自動車道沿道と恐竜博物館との間は、勝山ICを利用するのが最速となった。しかし、今回の調査で勝山ICを利用していたのは往路48名、復路29名にすぎず、依然として福井北IC・永平寺方面(往路68名、復路37名)や、福井駅・福井IC・一乗谷方面(往路47名、復路38名)、東尋坊・あわら・丸岡IC方面(往路23名、復路25名)から一般道を利用する人が多いことが明らかになった。一般道利用者が多いのは、永平寺、東尋坊など周辺の観光地を巡る人々が多いためと考えられるが、①永平寺大野道路は無料なのに、有料道路であるというイメージがある、②復路は福井北ICの一つ手前にある松岡IC

で降りないと、そのまま北陸自動車道に入って課金されてしまうことも永平寺大野道路の利用者が少ない一因と考えられる。

4) 来訪回数

恐竜博物館への来訪回数は、はじめて(1回目)が214名(71.3%)、2回目以上は81名(27.0%)、無回答が5名(1.7%)であった。2013年11月に実施した調査でも、はじめてが73.3%、2回目以上が26.5%、無回答が0.3%であり、リピーターの割合が高まっていないことが明らかになった。

また、リピーター客81名の同伴者別内訳をみると、家族連れが54名でもっとも多く、以下は夫婦・カップル15名、グループ連れ6名、女子会・同窓会4名、ひとり旅、同好会・サークル等が各1名であった。

5) 旅行計画時における情報収集手段(複数回答)

「今回の旅の計画を立てるにあたり、どんなもので情報を集めましたか？」という問いに対する回答は、知人からの口コミ(回答数65)がもっとも多く、以下は旅行雑誌(41)、観光協会・観光施設等のホームページ(36)、旅行会社・予約サイトのホームページ(35)、個人(旅行者)のブログ・SNS(27)、観光パンフレット・マップ(25)の順であった。その他の内訳は選択肢に該当しないホームページ(福井県、勝山市のホームページや観光関係業種以外のサイト等)(29)、テレビの番組やCM(9)などで、残りの大半は「前から知っていたので、とくに情報収集はしなかった」であった。

近年、多くの観光地で同様の調査を実施すると、観光協会・観光施設等のホームページや旅行会社・予約サイトのホームページが上位になる場合が多い。しかし、今回の結果では知人からの口コミが最多となっており、個人(旅行者)のブログ・SNSも観光協会・観光施設等のホームページや旅行会社・予約サイトのホームページに近い回答数になっていることから、観光地に対する個人の感想が重視される傾向が強まっていることが考えられる。

6) 恐竜博物館の情報収集手段(複数回答)

「恐竜博物館の情報は、何で収集しましたか？」という問いに対する回答は、知人からの口コミ(回答数59)がもっとも多く、以下は観光施設(=恐竜博物館)のホームページ(40)、旅行雑誌(33)、旅行会社・予約サイトのホームページ(29)、個人(旅行者)のブログ・SNS(21)の順であった。また、その他のなかには5項の回答と同様に、選択肢に該当しないホームページ(福井県、勝山市のホームページや観光関係業種以外のサイト等)、テレビの番組などの回答がみられた。

7) 宿泊日数・宿泊地

宿泊日数は、日帰りが153名(51.0%)、1泊が105名(35.0%)、2泊が30名(10.0%)、3泊以上が8名(2.7%)、無回答(わからない、未定)が4名(1.8%)であった。調査を実施した日が3連休の初日と2日目だったにもかかわらず、半数以上が日帰りであった(図3)。

「2)居住地分布」で上位を占めた5府県の日帰り者数は、愛知県からの来館者45名のうち18名、大阪府からの来館者31名のうち9名にすぎず、いずれも6~7割は宿泊していた。一方、福井県では来館者32名のうち30名、石川県では来館者29名のうち23名、富山県では来館者21名全員が日帰りであり、北陸3県からの来訪者は圧倒的に日帰りが多いことが明らかになった。

宿泊地は、福井県内では福井市内がのべ56泊でもっとも多く、以下は三国・芦原温泉30泊、勝山市内14泊、越前大野11泊、鯖江市内3泊、敦賀市内2泊の順であった(1泊は省略)。また、県外では加賀温泉郷(8泊)、金沢市内(6泊)、富山県内(5泊)など目立った。以上の結果を2013

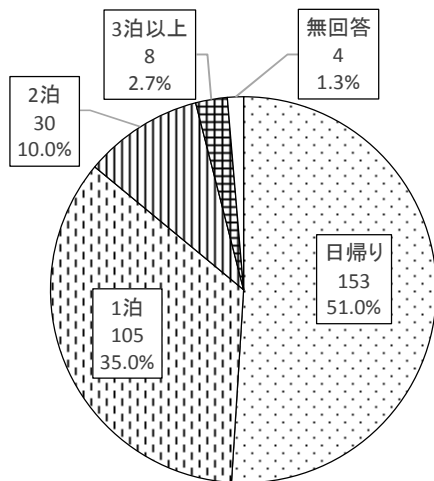


図3 来館者(回答者)の宿泊日数

(アンケート調査をもとに作成)

表2 2013年と2017年における宿泊日数の比較

宿泊地名	2013年11月		2017年11月		
	泊数	比率	泊数	比率	
福井県内	勝山市内	22	8.6	14	7.3
	越前大野	2	0.8	11	5.7
	福井市内	55	21.4	56	29.2
	三国・芦原温泉	40	15.6	30	15.6
	鯖江市内	1	0.4	3	1.6
県外	敦賀市内	5	1.9	2	1.0
	加賀温泉郷	17	6.6	8	4.2
	金沢市内	7	2.7	6	3.1
	富山市内	1	0.4	5	2.6
その他	107	41.6	57	29.7	
総計	257	100.0	192	100.0	

注:「泊数」はのべ泊数を示した。

資料:アンケート調査をもとに作成

年11月の調査結果と比べてみると、越前大野の宿泊者が増加しているものの、依然として福井市内や三国・芦原温泉、加賀温泉郷など博物館から1時間程度離れた地域に宿泊する傾向が強いといえる(表2)。

7) 恐竜博物館以外の立ち寄り先(複数回答)

恐竜博物館以外で立ち寄る観光地は、東尋坊(回答数50)と永平寺(49)とが突出していた。以下10名以上が立ち寄っていたのは金沢(20)、一乗谷朝倉遺跡(12)、越前大野(11)、越前大仏(10)の4か所であった(図4)。東尋坊と永平寺が突出していた点は2013年11月の調査と同様であるが、前回調査で上位だったあわら温泉、越前松島水族館、白山麓・白山スーパー林道(白山白川郷ホワイトロード)が減り、勝山に隣接した越前大野や、市内にある越前大仏が増えた点が異なっていた。こうした変化は、近隣の観光地への指向が強まったようにも受け取れる。しかし、他の市内観光地は平泉寺白山神社(回答数9)、勝山城博物館(3)、ゆめおーれ勝山(1)、本町通りの古い町並み(1)にすぎなかった。また、「恐竜博物館しか立ち寄らない」という回答は121(全体の33.6%)で、前回調査の32.6%をわずかに上回っており、恐竜博物館の来館者が他の市内観光地に立ち寄らない状況が改善されていないことが明らかとなった。

8) 「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」の認知度

「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークを知っていますか?」という問いに「はい」と回答した人は300名中62名(20.7%)、「いいえ」と回答した人は235名(78.3%)、無回答は3名(1.0%)であった。I章でも述べたとおり、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」は恐竜博物館を主要ジオサイト(拠点施設)として位置づけたことで条件なしの再認定を受けたが、その拠点施設を訪れた人々の8割近くがジオパークを認知していないことが明らかになった。

また回答者のなかには、「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」のエリアが福井県勝山市全域であることを知らない人や、ジオパークを違うものと勘違いしている人もいた。これらのことから、恐竜博物館がジオパークの拠点施設であることを人々にもっと知ってもらうとともに、ジオパークの認知度を上げるために、IV章で後述するような取り組みを進めていくことが必要といえよう。

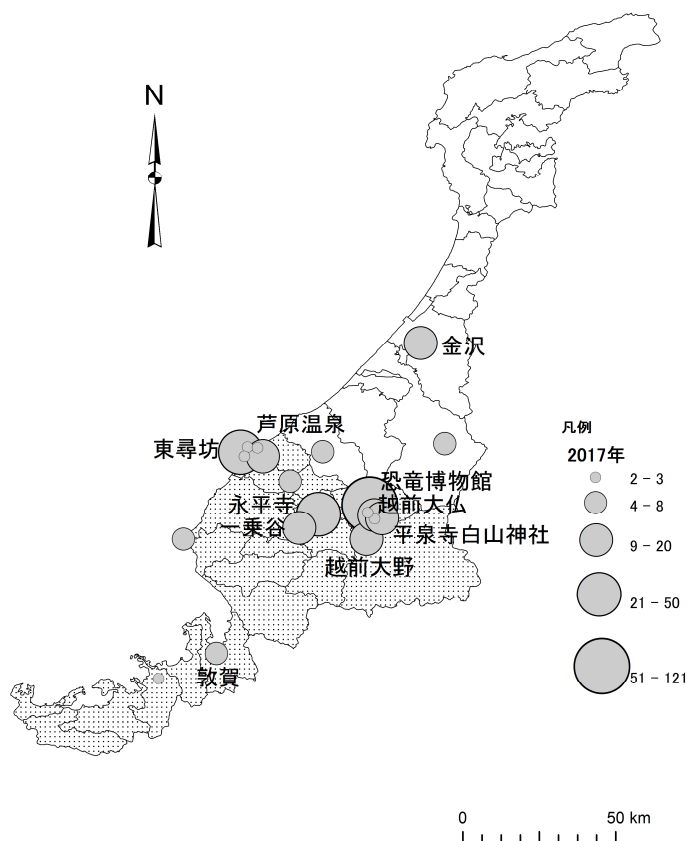


図4 来館者(回答者)の立ち寄り地

(アンケート調査をもとに作成)

表3 ジオサイトへの立ち寄り状況

ジオサイト名	人数
「恐竜・恐竜化石」	
恐竜化石発掘地	22
夫婦滝・杉山鉱泉	1
「火山と火山活動」	
スキージャム勝山	9
弁ヶ滝	0
御堂之滝・釣鐘岩	1
池ヶ原湿原	0
大矢谷白山神社の巨大岩塊	1
樫ヶ壁	0
「九頭竜川などの河川とその地形」	
七里壁	0
大清水	0
ゆめおーれ勝山	1

注: 恐竜博物館、かつやま恐竜の森は除く
資料: アンケート調査をもとに作成

9) 立ち寄ったジオサイト(複数回答)

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」には14のジオサイト(見どころ)がある。このうち恐竜博物館と隣接するかつやま恐竜の森、複数存在するため場所が特定できないため池の3サイトを除いた11サイトについて、立ち寄りの有無を尋ねた。この結果、回答者が立ち寄ったことがあるのは恐竜化石発掘地(22名)、スキージャム勝山(9名)、夫婦滝・杉山鉱泉、御堂之滝・鐘釣岩、大矢谷白山神社の巨大岩塊、ゆめおーれ勝山(各1名)のみで、弁ヶ滝、池ヶ原湿原、樫ヶ壁、七里壁、大清水の5サイトは誰も立ち寄っていなかった(表3)。自ら「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の推進に携わった畑中(2015)は「当地域が当初、ジオパークのメインテーマを恐竜、恐竜化石としたことで、地域の人々に『ジオパーク=恐竜』というイメージが定着してしまった」と述べているが、恐竜博物館来館者の場合も恐竜化石に目が向いてしまい、他のジオサイトにはあまり目が向かないものと考えられる。

IV 調査結果から見えてきた問題点とその解決策

1. アンケート結果から見えてきた問題点

Ⅲ章で述べたアンケートの結果からは、以下のような問題点を見出すことができる。

①恐竜博物館の安定的な集客圏は、比較的短時間で来られる北陸・東海・近畿地方に限られてお

り、それ以遠への広がりがみられない。

- ②2013年11月に実施した調査では、はじめて来訪した人が73.3%を占めていたが、今回の調査でもはじめて来訪した人が71.3%を占めており、リピーターの割合が高まっていない。
- ③前回の調査に比べると越前大野での宿泊者が増加したものの、福井市内や芦原温泉、加賀温泉郷など博物館から1時間程度離れた地域に宿泊する傾向が強い。
- ④恐竜博物館以外の立ち寄り先は東尋坊と永平寺に集中しており、恐竜博物館にしか立ち寄らない人がほぼ3分の1を占めている。
- ⑤「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」の認知度が低く、恐竜関係以外のジオサイトを訪れる人が少ない。
- ⑥とくに市街地のジオサイトや古い町並みを訪れる人は少なく、課題となっている市街地への誘客が円滑に進んでいるとはいえない。

2. 問題点の解決策

ここでは、前記①～⑥の問題点を解決する方策について、筆者らの視点から提案したい。

1) 恐竜博物館の集客圏の拡大

安定的な集客圏である北陸・東海・近畿地方からの来館者は大部分が自家用車を利用していた。一方、関東地方からの来館者18名のうち自家用車を利用しているのは7名で、残る11名は県内または近隣の駅・空港からレンタカーを利用したり、えちぜん鉄道とコミュニティバスを利用したりしていた。これらの人々は居住地から北陸新幹線や飛行機で来訪し、レンタカーやえちぜん鉄道に乗り換えたものと考えられ、駅・空港からの二次交通が充実すればさらなる集客圏の拡大も期待できる。

具体的には、金沢駅や小松空港を起点として、石川県加賀地域と福井県嶺北地域の主要観光地や温泉を結ぶ定期バスを運行することが考えられる。採算性を考えると実現は容易ではないが、高岡・新高岡・城端と五箇山・白川郷とを結ぶ「世界遺産バス」が好評を博していることからわかるように、新幹線駅または空港と観光地とを結ぶ定期バスは、新たな観光需要を掘り起こす可能性を秘めている。とくに、小松空港は札幌・仙台・成田・羽田・福岡・沖縄の国内6空港、ソウル・上海・台北の海外3空港との間に定期便が就航しており、空港と周辺の観光地・観光施設が結ばれることが、観光誘客だけでなく北陸新幹線敦賀延伸後の航空路線維持にも繋がると考えられる。ただし、二次交通の充実に関しては、一つの自治体や観光施設が単独で取り組むのは困難であり、県を越えての広域連携が望まれる。

2) 恐竜博物館のリピーター確保

恐竜博物館のような大型施設では展示品に莫大な費用を投じており、来館者を飽きさせないために展示替えを行うことは困難である。しかし、季節ごとにイベントや体験学習の内容を変えたり、貴重な展示物を期間限定で展示したりする取り組みは可能であろう。京都の寺社では「特別拝観」と称して仏像や美術品などを期間限定で公開することが多いが、この手法を用いてリピーターを増やしてはどうか。また、リピーターの3分の2は家族連れであったことから、恐竜博物館内だけでなく市内のジオサイトや周辺観光地においても、家族連れに「楽しい」「また来たい」と思ってもらえるような企画や展示を行うことが、リピーターにつながると考えられる。

3) 市内での宿泊客の確保

勝山市内には宿泊施設が少なく、収容力にも限りがある。かといって、大型の宿泊施設をこれ以上誘致しても、閑散期には客室の供給過剰となる可能性が高い。

近年、京都では古い町家をリニューアルした民宿やゲストハウスが増加しており、「京都らしさ」を求める若者や外国人に人気となっている。また、古民家などを活用した民宿やゲストハウスを開設する動きは、全国各地にも広がりつつある。勝山市でも空き家が増えており、「空き家情報バンク」に多数登録されている。こうした空き家を活用して、「勝山らしさ」を売り物にした民宿やゲストハウスを開設しようとするオーナーに開業資金を援助し、宿泊施設の収容力を高めていくことも、勝山市での宿泊を増やすうえで有効と考えられる。

4) 恐竜関係以外のジオサイトや古い町並みへの誘客

観光客の入り込み状況に、前節④や⑥で述べたような差が生じる原因としては、観光地の規模や知名度、観光地としての価値の差があげられる。多くの場合、観光地の規模が小さいほど、知名度が低いほど、観光地としての価値が低いほど集客は難しくなる。

しかし、近年ではこれまで注目されてこなかった観光地が、突然注目の的となることがある。例えば、特に観光地でもなかった場所がアニメや映画の舞台となったことで「聖地」となり、多くの人々が押し寄せることがある。また、名も知れぬ小さな神社がパワースポットとして話題になり、人気観光地化することもある。また、その土地特有の地理や歴史に因んだストーリーで個々の観光スポットを結びつけることで集客に成功している地域もある。このように、観光地としての価値が決して高くない場所でも、伝説性を付加したり、観光地同士を1つのストーリーで結びつけたりすることによって、誘客を図ることが可能と考えられる。

5) ジオパークの認知度向上

ジオパークの認知度を上げて誘客を図るためには、より多くの人にジオパークの存在や意義を知ってもらうことが必要と考える。そのために欠かせないのが SNS の利用である。

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」では、オリジナルサイト(ホームページ)と Facebook を活用しており、月に数回新たな情報が書き込まれている。Facebook は写真・動画と比較的長い文章を掲載でき、中高年層にも利用が広がっている。その反面、若者の Facebook 離れが進んでいるといわれ、若年層にジオパークの魅力を伝えるには不向きである。これに対して、Instagram は短文を添えられるものの写真・動画が主体で、若者を中心に利用が拡大している。このような点を考えると、Facebook と Instagram を併用するか、連携機能で双方に同時に発信することで、幅広い年齢層に「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の魅力を伝えることが必要となろう。

また、恐竜博物館やジオサイト、古い町並みなどを訪れた人が観光客目線で見た写真・動画をリアルタイムでアップしてもらい、それらを多くの人々に拡散してもらうことで、認知度を上げていくことも重要である。そのためには恐竜博物館やジオパーク協議会事務局が「インスタ映え」するスポットを紹介していくことも必要となろう。

6) ジオパークにおける体験学習の活発化

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」のジオサイトは、「恐竜・恐竜化石」「火山と火山活動」「九頭竜川などの河川とその地形」の3エリアに分類されている。このうち、「恐竜・恐竜化石」エリアと「九頭竜川などの河川とその地形」エリアには体験型学習ができる施設等もみられるが、「火

山と火山活動エリア」には体験型学習ができる場所がない。恐竜博物館の来館者の6割が子ども連れであることを考えると、子供が喜ぶ体験型学習の場が「火山と火山活動エリア」にも必要と考えられる。

V おわりに

本稿では2017年11月に恐竜博物館来館者に対して実施したアンケート調査を、2013年11月に実施した同様なアンケート調査と比較しながら、周辺地域での観光行動が変化したのか否かを分析した。この結果、①安定的な集客圏が北陸・東海・近畿地方以遠には広がっていない、②リピーターの割合は3割弱でほとんど変化がない、③前回調査と同様、恐竜博物館から1時間程度離れた地域に宿泊する傾向が強い、④恐竜博物館にしか立ち寄らない人がほぼ3分の1を占めており、市内のジオサイトや古い町並みに立ち寄る人が増えていない、などの問題点が明らかになった。

前回の調査をもとにした助重(2014)では、恐竜博物館内か博物館の駐車場周辺に観光案内機能をもつインフォメーション・センターを置き、フィールド(ジオサイトや古い町並み等)でみられるさまざまな事象を紹介して、フィールドへ見に行かせる役割をもたせる必要があると述べた¹³⁾。2018年4月には恐竜博物館駐車場に観光案内所を併設した飲食物販施設「ジオターミナル」が開設され、ようやくフィールドへの出発点の役割を果たす機能が整備された。また勝山ICの近くには勝山市道の駅「恐竜渓谷ジオパーク(仮称)」を設置する予定であり、ここにも観光案内機能が整備される。さらに福井県では第2恐竜博物館を建設する構想を進めており、これらの整備に伴って、本稿であげた問題点がどの程度改善または解消できるのかを引き続き注視していきたい。

本稿は、平成29年度の富山国際大学現代社会学部観光専攻科目「観光調査・分析法」で実施した福井県立恐竜博物館での観光客動向調査(2017年11月3~4日)の結果をもとに作成した。調査の実施にあたっては、勝山市役所商工観光部ジオパークまちづくり課長(当時)の山内千鶴代氏、福井県立恐竜博物館副館長(当時)の後藤道治先生、NPO法人 恐竜のまち勝山応援隊にご協力いただいた。末筆ながらここに記して厚く御礼申し上げます。

注および参考文献(ホームページはいずれも2018年9月30日に閲覧)

- 1) 富山市科学博物館「とやまの恐竜化石」ホームページの「手取層群とは?」による。
(http://www.tsm.toyama.toyama.jp/_ex/dino/02dino/01dino/01tetori/tetori.html)
- 2) 「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」ホームページによる。(<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/geopark>)
- 3) 勝山市役所総務部未来創造課(2018): 「勝山市のすがた(勝山市統計書)」平成30年版, 68ページ.
- 4) 前掲3)
- 5) 日本ジオパークネットワークの恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク紹介ページによる。
(<http://www.geopark.jp/geopark/fukui/>)
- 6) 再認定審査は4年ごとに行われる。初の条件付き認定となった「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」に対しては、2年後の2015年12月に問題点が改善されているかどうか再審査し、ジオパークとしての継続の可否を判断することとなった。
- 7) 日本ジオパーク再認定審査結果報告で示された「審査で明らかとなった各ジオパークの活動状況の概要」の原文は以下のとおり。

10年来エコミュージアムとして行われてきた地域力アップの活動を背景にして、新たな切り口でジオツアーが行われ始め、NPOやリゾート施設との連携も出てきた。しかし、勝山市のまちづくりの中でのジオパークの位置づけ、エコミュージアムとの関係が明確でなく、両者が別々に運営されることにより地域の自然・

- 文化資源の一体的な活用が不十分となっている。年間 60 万人を集客する恐竜博物館を含めた地域の各種資源を、勝山市民がジオパークでどのように活かすか、市民、市、県など関係者で十分に話し合う必要がある。
- 8) 助重雄久・恐竜博物館観光調査グループ(2014) : ジオパーク関連施設が周辺地域の観光にもたらす効果－福井県立恐竜博物館の事例－. 富山国際大学現代社会学部紀要 6, 87-98.
 - 9) 日本ジオパークネットワークの再認定審査結果(2015年12月14日)による。
(http://geopark.jp/about/pdf/press_release20151214_01.pdf)
 - 10) 前掲 3)
 - 11) 前掲 3)
 - 12) 畑中健徳(2015) : 恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークの 2013 年再認定審査における条件付き再認定とテーマの再設定について. ジオパークと地域資源 1-1, 15-17.
 - 13) 前掲 8)